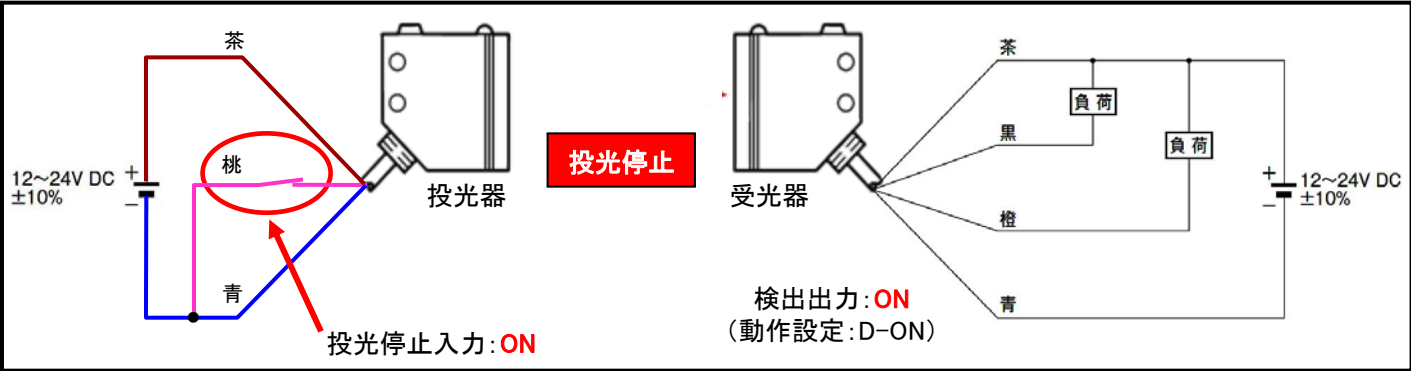
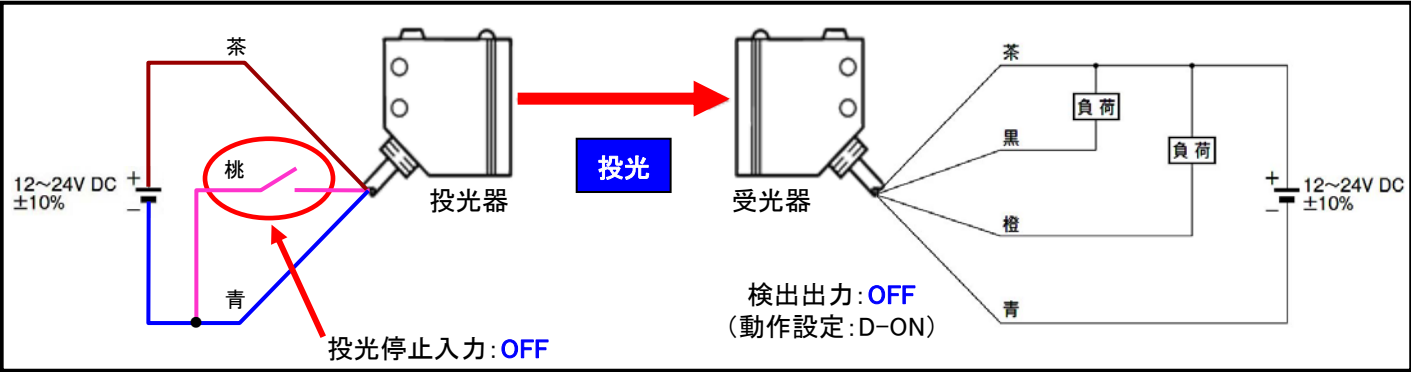


【投光停止機能】

■ 投光停止機能とは？

一部の光電センサ（ファイバセンサ、レーザセンサを含む）に装備されており、投光停止入力線に信号を加えること、もしくは設定スイッチにより投光を停止させることができます。

<ダイカスト光電センサ汎用タイプ 透過型>



■ 投光停止機能が装備されている機種

ダイカスト光電センサ汎用タイプRXシリーズには、投光停止機能が装備されています。  
この他には、ダイカスト光電センサヘビーデューティタイプRX4シリーズ、デジタルファイバセンサFX-500シリーズ、FX-300シリーズ、FX-100シリーズ、薄型・自動感度設定光電センサ外部同期入力タイプSU-75、デジタルレーザセンサアンプLS-500シリーズ、LS-400シリーズ、距離設定反射型光電センサEQ-L401(P)に装備されています。

汎用タイプ

| <div></div> <div>種 類</div> | 透 過 型 |        |        |        | ミラー反射型           |              | 拡散反射型   |         |          |
|--|-------|--------|--------|--------|------------------|--------------|---------|---------|----------|
|  | 赤 外   |        | 赤 色    | 緑 色    | 赤 色<br>(偏光フィルタ付) | 赤 外<br>(長距離) | 赤 外     | 赤 色     |          |
|  | 長距離   |        |        |        |                  |              |         |         |          |
| 項 目  | 型 式 名 | RX-M10 | RX-M50 | RX-M2R | RX-500G          | RX-PRVM3     | RX-RVM5 | RX-D700 | RX-D200R |
| 投 光 停 止 機 能  |       | 装 備    |        |        |                  |              |         |         |          |

## ■ 投光停止機能の用途

投光停止機能の一般的な用途として“始業点検”があります。その項目のひとつとして、光電センサ出力の破損確認が挙げられます。

例えば、光電センサでワークを検出したら出力をONさせる、といった使い方を想定します。

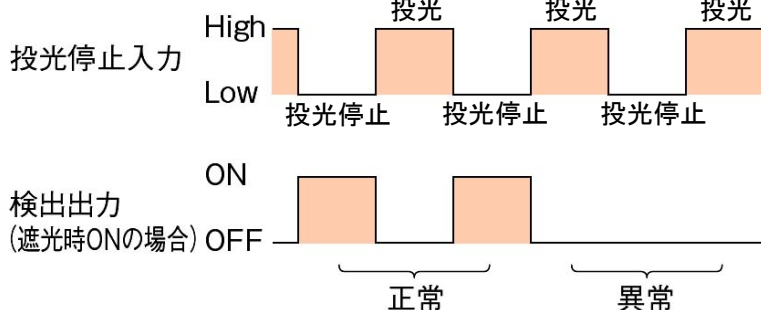
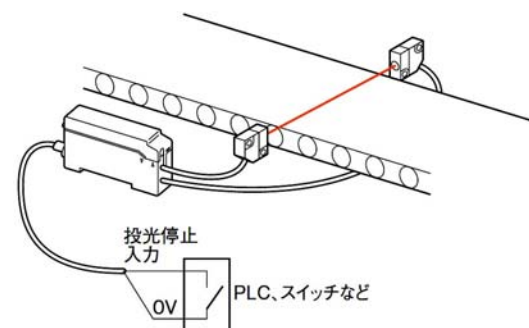
今、仮に光電センサの出力がOFFのままで破損していたとすると、ワークがあるにもかかわらず出力はONにならず、このまま稼動すると問題が生じます。このため、稼動前にセンサ出力の破損を確認すること、すなわち、始業点検を行なう必要が出てきます。

光電センサ出力の破損確認、すなわち、出力が正常にON・OFFするかどうか？を点検するため、本稼動の前にワークを数個用意して生産ラインに流せばよいのですが、時間や手間が掛かるためすぐに稼動できない(生産性の低下)等の問題に繋がります。

ワークの代わりに“手”で入光・遮光を繰り返してもよいのですが、光電センサが込み入った場所に設置してある場合は、作業が困難な場合があります。そこで登場するのが、投光停止機能です。

投光停止入力に信号を加え、信号の有無に追従して光電センサの出力がON・OFFすれば正常、そうでなければ異常と判断できます。

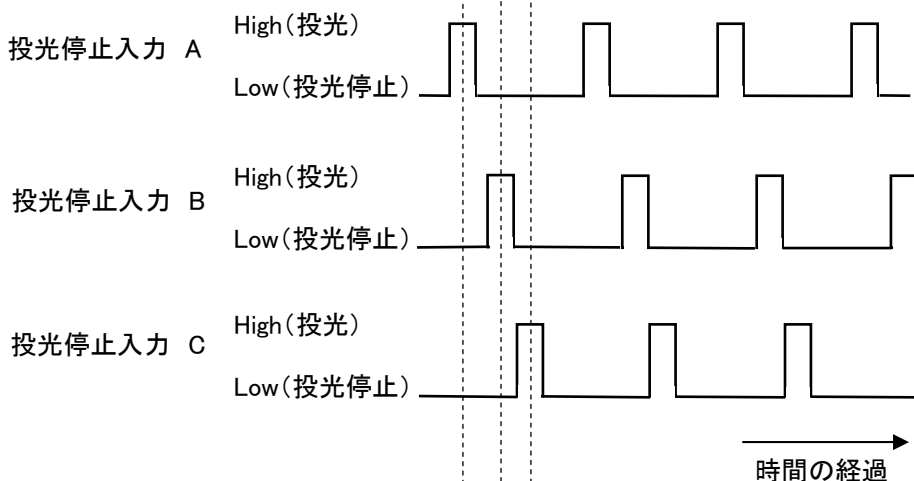
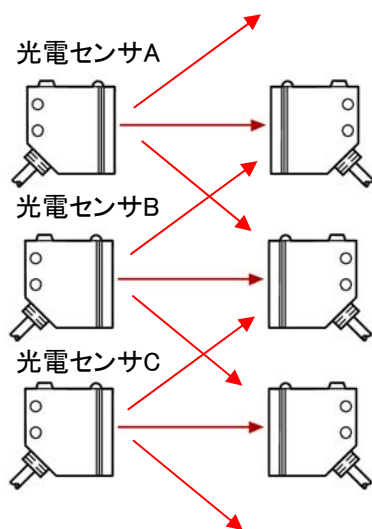
### ● タイムチャート



投光停止・投光に追従して、  
光電センサの出力がON・OFF  
を繰り返している。

光電センサの検出出力  
がON・OFFしていない。  
すなわち、**出力が破損**  
している。

光電センサを多数個並べて使用する時に、投光停止機能を利用して投光をスキャンング点灯させると、相互干渉防止にも役立ちます。



<スキャンング点灯>